

米軍が、日本などを対象に核戦力を握り、中国や北朝鮮を威嚇する危険な動きを始めています。岸田文雄政権は米国の核戦略を全面的に支持し、被爆国政府にあるまじき姿勢をあらわにしています。北朝鮮が弾道ミサイル発射を繰り返し、中國が核弾頭数を増やすなど核戦力の増強を図っています。しかし、これらは許されません。しかし、「抑止力」の強化を口実に核の威嚇でこれに対抗すれば核軍拡の悪循環をさらに加速するだけです。

弾道ミサイル原潜公然と

米海兵隊はCH-53E大型輸送ヘリコプター機がフジツボン海で米海軍のオハイオ級弾道ミサイル原潜メインに補給したことを報道発表(同月18日)しました。同原

潜は最大20発の核弾道ミサイル・トライデントIIロードを搭載しています。核ミサイル搭載原潜の行動は極秘にもかかわらず、今回の発表は異例でした。

本紙日曜版(7月16日)によると、補給は米海兵隊普天間基地(沖縄県宮古島)に配備された

潜は最大20発の核弾道ミサイル・トライデントIIロードを搭載しています。

また、米空軍嘉手納基地(沖縄県嘉手納町など)に4月から配備されました。核ミサイル搭載原潜の行動は極秘にもかかわらず、これまで1961年15日戦闘機が、20

21年秋に米本土で核爆弾の投下試験を行ったことが分かりました。(本紙7月18日付)。同機は核・非核両用戦闘機の前

述べたように、B61は搭載できません。しかし、「核抑止」とは、核兵器の使用を前提にして、広島・長崎のよくな

域における米国の戦力を強化し、この地の「可視性」の增大とは、核による非人道的懐想を引き起しかねないためのわざと議論です。核戦力の「可視性」の増大とは、核による脅威を強めることに他なりません。核戦争を求める国内外の世論に真っ向から禦むのです。岸田政権が昨年末に閣議決定した安保改定は、「核抑止力を中心

とした。沖縄駐留の海兵隊航空部隊B61の機搭載を設けています。その他、米空軍のB52戦略爆撃機が昨年後半から今年にかけて、機が昨年後半から今年にかけて、日本海や東シナ海上空、沖縄周辺域で、航空自衛隊の戦闘機と共に訓練を継続しています。

また、米空軍嘉手納基地(沖縄県嘉手納町など)に4月から配備されました。核ミサイル搭載原潜の行動は極秘にもかかわらず、これまで1961年15日戦闘機が、20

21年秋に米本土で核爆弾の投下試験を行ったことが分かりました。(本紙7月18日付)。同機は核・非核両用戦闘機の前

述べたように、B61は搭載できません。しかし、「核抑止」とは、核兵器の使用を前提にして、広島・長崎のよくな

あからさまな核の脅し許すな

われは国連国や友好

「核抑止」とは、核兵器の使用を前提にして、広島・長崎のよくな

核爆弾を搭載可能ですか。試験では、

「核抑止」は、核兵器の使用を特定する」と強調しています。

など)の可視性を増大させる機会

機が昨年後半から今年にかけて、

な)の可視性を増大させる機会

機が昨年後半から今年にかけて、

な)の可視性を増大させる機会

機が昨年後半から今年にかけて、

な)の可視性を増大させる機会

機が昨年後半から今年にかけて、

な)の可視性を増大させる機会

機が昨年後半から今年にかけて、

な)の可視性を増大させる機会

機が昨年後半から今年にかけて、

米核戦力「可視」化

主張